

第 3 8 5 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 7 年 5 月 3 0 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

	件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定 等
1. 委員会関係						
提案 1	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正（新規設置 2 件） (2)委員会委員の決定（追加 4 件） (3)分科会委員の決定（追加 2） (4)小委員会委員の決定（新規 2 件）	(1)経営学委員会委員長、農学委員会委員長、食料科学委員会委員長 (2) (3) (4) 第一部長、第二部長、第三部長	5	小委員会の設置に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、委員会等における委員を決定する必要があるため。	第一部長、第二部長、第三部長	(1)会則27条 1 項 (2)内規12条2項 (3) (4) 内規18条
2. 国際関係						
提案 2	令和 7 年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定すること	会長	12	令和 7 年度代表派遣について、実施計画の変更及び派遣者を決定するため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第 19 条 2 項、21 条
提案 3	令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣について、変更すること	会長	13	令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣について、変更する必要があるため。	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規 59 条
提案 4	若手アカデミーの IAP 加入について	会長	14	既に日本学術会議が加入している国際学術団体（IAP）に若手アカデミーを加入させることとしたため。 なお、本件加入については、新たに義務を負担するものではないため、日本学術会議法第 6 条の 2 第 2 項の規定による、内閣総理大臣の承認を経る必要はないもの。 ※国際委員会 5 月 29 日承認、同 ISC 等分科会 5 月 12 日承認	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規第 6 条
3. シンポジウム等						
提案 5	講演会「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ【第 1 回】多様な育種のかたちⅠ ～水産/作物編～」の開催について	農学委員会委員長	18	主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会 日時：令和 7 年 6 月 20 日（金）12:00 ～ 13:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2
提案 6	講演会「ウェビナーシリーズ ゲノム編集のいま ～産業・食品への応用と社会的受容～【第 1 回】ゲノム編集食品～世界はどのように規制しているのか？」の開催について	農学委員会委員長	20	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会産業生物バイオテクノロジー分科会 日時：令和 7 年 6 月 27 日（金）12:00 ～ 13:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第 2

提案7	公開シンポジウム「日本学術会議国際光デー記念シンポジウム～光が拓く科学と技術の最前線～」の開催について	総合工学委員会委員長	22	主催：日本学術会議総合工学委員会IC0分科会 日時：令和7年7月7日（月）13：00～17：40 場所：日本学術会議講堂、ロビー（東京都港区） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム「教育改革と可視化ー生成AIの普及と向き合うAI・データサイエンス教育」の開催について	総合工学委員会委員長	24	主催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和7年7月14日（月）12：30～15：00 場所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール（大阪府大阪市東淀川区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認		内規別表第2
提案9	公開シンポジウム「生成AIを受容・活用する社会の実現に向けて」の開催について	情報学委員会委員長	26	主催：日本学術会議情報学委員会、情報学委員会ITの生む諸課題検討分科会 日時：令和7年7月17日（木）10：00～17：10 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム「第18回情報学シンポジウムー生成AIとICTが拓く未来：市民参加型デモクラシーとまちづくりー」の開催について	政治学委員会委員長、情報学委員会委員長	29	主催：日本学術会議情報学委員会、政治学委員会 日時：令和7年7月18日（金）9：30～12：00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）および オンライン配信（ハイブリッド開催） ※第一部承認、第三部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム「デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用：方法と課題」の開催について	社会学委員会委員長、情報学委員会委員長	31	主催：日本学術会議社会学委員会デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用に関する検討分科会、情報学委員会サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会 日時：令和7年7月19日（土）13:00～17:10 場所：オンライン開催 ※第一部承認、第三部承認	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム「持続可能な未来を築く物質・構造・機能～資源リサイクル、カーボンニュートラル、食物問題の解決に向けて～」の開催について	物理学委員会委員長、化学委員会委員長	33	主催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会IUCr分科会 日時：令和7年7月20日（日）13：00～16：40 場所：オンライン開催 ※第三部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム「学校の公共性を問い直す」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	36	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会 日時：令和7年7月26日（土）9：30～12：30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム「地球温暖化は南極をどのように変えるか？ー日豪共同研究の新展開ー」の開催について	地球惑星科学委員会委員長	38	主催：日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 日時：令和7年7月28日（月）10：00～17：00 場所：日本学術会議講堂（東京都港区） ※第三部承認	—	内規別表第2

提案15	公開シンポジウム「複合的地球環境問題へのヒューマンディメンションからの問い（仮）」の開催について	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	41	主催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人的側面分科会 日時：令和7年8月2日（土）13：00～16：00 場所：オンライン開催	—	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」の開催について	第三部長、科学者委員会委員長	43	主催：日本学術会議第三部会、日本学術会議東北地区会議、東北大学 日時：令和7年8月7日（木）13：30～17：30 場所：東北大学大学院工学研究科青葉山キャンパスC01センタースクエア中央棟2F大講義室（宮城県仙台市）（ハイブリッド開催） ※第三部、科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム「情報教育の現状と未来～情報教育課程の設計指針の改訂について～」の開催について	情報学委員会委員長	46	主催：日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会 日時：令和7年9月4日（木）15：30～17：30 場所：北海道科学大学（北海道札幌市）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム「界面反応に基づくバイオマテリアル研究開発」の開催について	臨床医学委員会委員長、歯学委員会委員長、化学委員会委員長、材料工学委員会委員長	48	主催：日本学術会議材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会 日時：令和7年11月11日（火）9：00～11：30 場所：東京たま未来メッセ（東京都八王子市）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム「国立自然史博物館設立をめざしてー自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎」の開催について	基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、農学委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	51	主催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同進化学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUBS分科会 日時：令和7年11月22日（土）13:00 ～17:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案20	公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮）」の開催について	環境学委員会委員長、化学委員会委員長、総合工学委員会委員長	54	主催：日本学術会議総合工学分科会エネルギーと科学技術に関する分科会、環境学委員会環境科学・環境工学分科会、化学委員会・総合工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会（予定） 日時：令和7年12月1日（月）13：00 ～17：30 場所：日本学術会議講堂（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2

4. 後援

提案21	国内会議の後援をすること	会長	56	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・ 高校生のためのウェブサマースクール「ゲノム編集ってなに？」 ・ 第51回全国語学教育学会年次国際大会 ・ 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会国際シンポジウムー看護キャリアとしての高度実践看護：豪州と日本のプライマリ・ケアにおけるその価値と課題ー	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	----	-----------------

5. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は6月30日(月)14:30～開催予定。	57

分野別委員会運営要綱（平成26年 8 月28日 日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第 1					別表第 1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
経営学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	経営学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会	(略)	(略)	(略)		経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会サービス価値共創尺度小委員会	共創価値の尺度に関する幅広い調査に係る審議に関すること	8名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和7年5月30日～令和8年9月30日		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
健康・生活科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	健康・生活科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会	(略)	(略)	(略)		経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会サービス価値共創尺度小委員会	経営学委員会に記載	経営学委員会に記載	経営学委員会に記載		(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)

農学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会ゲノム編集技術検討小委員会	産業生物に対するゲノム編集技術の適用に関する見解の発出に関する意見の集約	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和7年5月30日～令和8年9月30日
	(略)	(略)	(略)	(略)
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会ゲノム編集技術検討小委員会	農学委員会に記載	農学委員会に記載	農学委員会に記載
	(略)	(略)	(略)	(略)

農学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
食料科学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)

総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会サービス価値共創尺度小委員会	経営学委員会に記載	経営学委員会に記載	経営学委員会に記載
	(略)	(略)	(略)	(略)

総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会	(略)	(略)	(略)
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に
資するサービス研究体系検討のための分科会小委員会の設置について

分科会等名：サービス価値共創尺度小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○経営学委員会 健康・生活科学委員会 総合工学委員会
2	委員の構成	8名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会が意思の表出の原案を作成する際の一助とするため、共創価値の尺度に関する幅広い調査について外部専門家を含めた審議を行う必要があることから、小委員会を設置する。
4	審議事項	共創価値の尺度に関する幅広い調査に係る審議に関すること
5	設置期間	令和7年5月30日～令和8年9月30日
6	備考	※新規設置

農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会
小委員会の設置について

分科会等名：ゲノム編集技術検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○農学委員会 食料科学委員会
2	委員の構成	20 名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	気候変動の進行により、安定した食料生産の確保や生物資源の産業利用の重要性が一層高まっている中、ゲノム編集技術はこれらの課題解決に資する有望な手段として期待されている。一方で、ゲノム編集によって作出された品種の「安全性」などに関する社会的理解は十分とは言えず、制度整備も技術の進展に追いついていないのが現状である。こうした課題に対し、産業生物バイオテクノロジー分科会では科学的視点からの議論と発信を進めるべく、外部有識者も交えた「ゲノム編集技術検討小委員会」を設置する。
4	審議事項	産業生物に対するゲノム編集技術の適用に関する見解の発出に関する意見の集約
5	設置期間	令和7年5月30日～令和8年9月30日
6	備考	※新規設置

【分野別委員会】

○委員会委員の決定（追加4件）

（基礎生物学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
上田 昌宏	大阪大学大学院生命機能研究科教授	連携会員
西田 治文	中央大学名誉教授	連携会員

【常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：17名】

（統合生物学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
辻 和希	琉球大学農学部教授	連携会員

【常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：11名】

（臨床医学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
五味 文	兵庫医科大学眼科学講座主任教授	第二部会員

【常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：19名】

（化学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
北川 宏	京都大学大学院理学研究科教授	連携会員

【常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：11名】

○分科会委員の決定（追加2件）

（情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
伊藤 孝行	京都大学大学院情報学研究科教授	連携会員

【設置：第358回幹事会（令和5年11月27日）、追加決定後の委員数：27名】

（化学委員会化学企画分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
北川 宏	京都大学大学院理学研究科教授	連携会員

【設置：第360回幹事会（令和5年12月22日）、追加決定後の委員数：18名】

○小委員会委員の決定（新規2件）

（経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会サービス価値共創尺度小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
-----	-----------	-----

戸谷 圭子	明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究 科教授	第一部会員
持丸 正明	国立研究開発法人産業技術総合研究所人間拡張 研究センター研究センター長	連携会員
上條 正義	信州大学繊維学部教授	連携会員
原 良憲	大阪成蹊大学 データサイエンス学部教授	連携会員
西村 訓弘	三重大学大学院地域イノベーション学研究科教 授／三重大学特命副学長（戦略企画担当）／宇都 宮大学学術院教授／宇都宮大学特命副学長	連携会員

【設置予定：第 385 回幹事会（令和 7 年 5 月 30 日）、決定後の委員数：6 名】

（農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会ゲノム編集技術検討小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
磯部 祥子	東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生 物学専攻園芸学研究室教授	第二部会員
立川 雅司	名古屋大学大学院環境学研究科教授	連携会員
吉田 薫	東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授	連携会員
丸山 明子	九州大学大学院農学研究院准教授	連携会員
江面 浩	筑波大学生命環境系特任教授	連携会員
山本 卓	広島大学大学院統合生命科学研究科教授	連携会員

【設置予定：第 385 回幹事会（令和 7 年 5 月 30 日）、決定後の委員数：12 名】

令和7年度代表派遣実施計画の変更及び派遣者の決定について

提案 2

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第381回幹事会(令和7年2月27日))にて承認済)の変更及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	Gサイエンス学術会議 2025	5月6日 ～ 5月8日	オタワ (カナダ)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会	・派遣者の変更 ※現地出席予定 ※光石会長の別用務対応 により変更
2	世界科学フォーラム 2026(WSF)運営委員会	5月～6月頃 ↓ 7月8日 ～ 7月9日	未定 ↓ ジャカルタ (インドネシア)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会 ISC 等分科会	・会期の変更及び開催地の 決定
3	国際土壌科学連合 (IUSS)第1部門国際会 議「私たちの未来を創る 土壌」	7月20日 ～ 7月25日 ↓ 7月19日 ～ 7月25日	ウィニペグ (カナダ)	小崎 隆 連携会員 (愛知大学国際問題研究所名誉教授)	農学委員会・食 料科学委員会合 同 IUSS 分科会	・会期の変更
4	国際宗教学宗教史学会 (IAHR)理事会及び第 23回世界会議	8月24日 ～ 8月30日 ↓ 8月21日 ～ 8月30日	クラクフ (ポーランド)	藤原 聖子 連携会員 (東京大学大学院人文社会系 研究科教授)	哲学委員会	・会期の変更
5	第15回アカデミー及び 学術団体の国際人権ネ ットワーク(IHRN)隔年総 会	9月9日 ～ 9月11日	オスロ (ノルウェー)	南野 佳代 第一部会員 (京都女子大学法学部法学科教授)	国際委員会科学 者に関する国際 人権対応分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣に係る変更について

以下のとおり、令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議への代表者の派遣（第 384 回幹事会（令和 7 年 4 月 15 日）にて承認済み）の変更を行う。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地／開催形 式	派遣候補者 （職名）	備 考
			計			
1	Sustainability Research & Innovation (SRI) Congress 2025 Africa Satellite Event	6 月 4 日 ～ 6 月 6 日 ↓ 6 月 3 日 ～ 6 月 6 日	3 日 ↓ 4 日	ナイロビ (ケニア) ／ ハイブリッド形式	春日 文子 連携会員 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科／プラネタリーヘルス学環教授)	・会期の変更 第 2 区分（※ 1） ※現地出席予定

※ 1 令和 7 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和 7 年 2 月 27 日日本学術会議第 381 回幹事会決定）に基づく区分

令和 7 年 5 月 1 日

日本学術会議会長 殿

若手アカデミー
代表 小野 悠

国際学術団体への加入申請書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 6 条の規定に基づき、若手アカデミーとして下記国際学術団体への加入を申請します。

記

1 国際学術団体に関する事項

名称	和文		インターアカデミーパートナーシップ		
	欧文		InterAcademy Partnership（略称 IAP）		
設立年月日			2016 年 3 月		
設立目的			自然科学、社会科学、工学及び医学の科学者ネットワークをつなぎ合わせる ことにより、政策提言、科学教育の振興、保健衛生の向上及び SDGs に代表 される重要な開発計画を推進。		
沿革			2016 年 3 月に国際的な分野別アカデミーの IAP : the global network of science academies（IAP）、InterAcademy Council（IAC）及び InterAcademy Medical Panel（IAMP）の 3 団体が統合して設立。		
団体の性格			非政府的（該当する） 該当しない） 非営利的（該当する） 該当しない）		
内規第 3 条第 3 号の 組織構成該当条項			ア イ ウ エ	ア以外に該当する場合 「複数の専門分野にわた る」ことを示す部及び委 員会名	・アドバイザー委員会 ・アカデミーキャパシティビルディング・ デベロップメントプログラム委員会 ・ポリシーアドバイス・プログラム委員会 ・エデュケーション・アウトリーチデベロ ップメント・プログラム委員会
法人登録地			アメリカ合衆国・ワシントン D.C.		
事務局所在地			アメリカ合衆国・ワシントン D.C.（全米アカデミーズ内）及びイタリア・ トリエステ（The World Academy of Sciences 内）		
主な役員	役職名	Co-President	Dr. Margaret A. Hamburg 国 籍 （ アメリカ合衆国 ）	選 出 方 法	選挙（会員投票） 任 期 （ 3 年）
		Co-President	Prof. Masresha Fetene 国 籍 （ エチオピア ）		選挙（会員投票） 任 期 （ 3 年）
		Co-chair	Prof. Stephanie Burton 国 籍 （ 南アフリカ ）		選挙（会員投票） 任 期 （ 3 年）
運営組織			IAP Inc. Board		

主な財源	イタリア外務省助成金、全米アカデミーズ・国際 NGO・財団等からの寄付			
分担金	有・ (無)			
学術会議が加入した場合の分担金	カテゴリー	単位額	金額（通貨）	定款等の根拠条項
決定要因	1 GNP	2 研究水準	3 科学者数	4 その他（ ）
学術会議が加入した場合の投票権（VOTE 数）	1 票 定款等の根拠条項 Article 2 ※既に加入している日本学術会議は 1 票の権利を有するが、若手アカデミーは Young Affiliate のため、投票権は付与されない。			
加入国数等	ナショナルメンバー数	主要加入国名（10か国）	エグゼクティブメンバー	加入個人会員数
	149	日本、米国、英国、フランス、ドイツ、イタリア、カナダ、オーストラリア、ロシア、中国	他 団体	人
現在、我が国からナショナルメンバーとして加入している団体	(有) ・日本学術会議 無			

2 国際学術団体活動状況

総会開催周期		(1) 定期的（ 3 年に 1 回） 2 不定期				
過去 5 年間	開催年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
	会議名	理事会	総会	理事会	ジョイントミーティング	総会
	開催地	スイス ベルン市	韓国 松島市	オンライン	オンライン	アメリカ合衆国 アリゾナ州
	参加国数	19 か国	80 か国	15 か国	22 か国	54 か国
	出席者数	38 人	104 人	15 人	75 人	125 人
関係国際学術団体	上部団体					
	協力関係団体	国際学術会議（ISC）他				
出版物		1 定期的（年 1 回） 主な出版物名 年次報告書 2 不定期（ ） 主な出版物名 ※タイトル仮訳 「COVID-19 ワクチンの公衆衛生的ポテンシャルの達成」 「科学技術におけるリスクとベネフィットの評価：質的フレームワークの可能性」 「COVID-19 に関する IAP コミュニケ」 「UNESCO オープンサイエンス助言に対する IAP の意見」 「構造的人種主義と差別の撲滅に関する IAP コミュニケ」 「COVID-19 後のグローバル・グリーンリカバリーに関するコミュニケ」 他				
学術に関する国際機関等の提唱で行った活動		(有) ・ A joint statement by the International Science Council (ISC) and the InterAcademy Partnership (IAP) on threats to the autonomy of academies of science as mechanisms for science advice (2023 年 12 月) 無				

学術に関する国際機関等への提言	☒ 有 ・化学兵器禁止機関（OPCW）に対する研究慣行及びバイオセキュリティに関する助言 ☐ 無
国際協力事業への参加又は実施	☒ 有 ・国連食糧農業機関(FAO)、UNESCO、アフリカ共同体などとの協力 ☐ 無
全世界（地域）的研究課題への取り組み	☒ 有 ・グローバルヘルスの推進、メンタルヘルス、再生医療、エビデミックの備えと対応、食糧安全保障と農業、SDGsの実現 ☐ 無
発展途上国への対応	☒ 有 IAP – NASAC Study on Decarbonisation of Transport in Africa (2022年)
関係学術分野の動向と今後の重要課題	SDGs に対する科学的貢献、特に気候変動対策

3 国内における国際学術団体への対応状況

※ 国際学術団体役員就任状況	役職名	IAP-P (旧 IAP-R) 理事		IAP-P (旧 IAP-R) 理事		コミュニケーション・教育・アウトリーチ委員会委員	
	氏 名	○山極壽一		○梶田隆章		○日比谷潤子	
	任 期	2017 年から 2020 年まで		2020 年から 2022 年まで		2022 年から 2025 年まで	年から 年まで
過去 5 年間 総会・学術研究集会への対応実績	開催年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2022 年	
	会議名	総会	理事会	ジョイントミーティング	理事会	総会	
	開催地	韓国 松島市	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	
	日本人参加者	2 人	1 人	1 人	1 人	3 人	
	学術会議による代表派遣(氏名)	☒ 武内 和彦 ☐ 無	☒ 高村 ゆかり ☐ 無	☒ 高村 ゆかり ☐ 無	☒ 高村 ゆかり ☐ 無	☒ 高村 ゆかり、日比谷潤子、新福洋子 ☐ 無	
	当該会議の学術会議共催・後援の有無	無	無	無	無	無	
関係学術研究団体名							
加入科学者数		0 人					

※ 役員が会員又は連携会員である場合には氏名の頭に○印を付けてください。

4 加入理由

学術の進歩への貢献 (国内・国際的)	IAP は、世界の科学アカデミーが参画するフォーラムとして、国際的な科学機関等と連携し、重要な地球規模の課題や危機への迅速な活動を行っている。若手アカデミーが IAP に加入し、世界の科学アカデミーと連携することにより、学術の進歩、ひいては地球規模の課題の解決への貢献が期待できる。
今後の我が国にとって重要な研究テーマ	気候変動、脱炭素社会、高齢化
国際学術交流の推進に与える影響	IAP に加入することにより、国際的なアカデミーメンバーとの交流が加速し、また、アジア科学学会 (AASSA) を始めとした地域ネットワークとの連携関係の構築が容易となる。同時に若手アカデミーの国際学術交流におけるプレゼンス向上と成果の拡大が期待できる。
その他	

5 添付資料

1 国際学術団体の定款 (欧文及び和文)
2 国際学術団体の概要説明書 (歴史、現況等)
3 国際学術団体の財務報告書 (最近のもの)

* 経 由 ISC 等分科会委員長 氏 名 日比谷 潤子		受付	令和 年 月 日
		進達	令和 年 月 日
加入申請が複数の場合の優先順位	_____位	(理 由)	

* 申請者は記入不要です。

講演会
「生物の多様性と未来をつなぐ育種学ウェビナーシリーズ
【第1回】多様な育種のかたちⅠ ～水産/作物編～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年6月20日（金）12:00 ～ 13:30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

気候変動や人口動態の変化、食料安全保障の課題が顕在化する中で、「育種」は安定した食料生産と社会課題の解決、そして地球環境の保全に直結する重要な領域として注目されています。本ウェビナーシリーズでは、作物・畜産・水産など多様な育種分野の第一線の専門家をお招きし、現場の最前線の課題から、人材育成・知的財産制度・社会との関わりまで、育種をめぐる多角的なテーマを掘り下げていきます。第1回目のウェビナーは水産および農産物の育種の現状について議論を行います。

9. 次 第：

- | | |
|-------|---|
| 12:00 | 開会の挨拶
<u>磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻園芸学研究室教授）</u> |
| 12:05 | 「日本における水産育種の現状と課題」
<u>菊池 潔（日本学術会議連携会員（特任）／東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所教授）</u> |
| 12:40 | 「日本の、世界の食卓を豊かにする種苗業界」 |

藤井 敬士（株式会社フジイシード代表取締役）
13:15 総合討論
進行
磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻園芸学研究室教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

講演会

「ウェビナーシリーズ ゲノム編集のいま ～産業・食品への応用と社会的受容～」

【第1回】ゲノム編集食品～世界はどのように規制しているのか？」

の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同産業生物バイオテクノロジー分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和7年（2025）6月27日（金）12:00 ～ 13:00

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可
参加者の参加費無：無

7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

気候変動や食料問題、生物資源の持続的利用といったグローバルな課題が深刻化する中、ゲノム編集技術は産業・食品分野における革新的なソリューションとして世界的に注目を集めています。しかし、その技術的ポテンシャルとは裏腹に、「安全性」や「社会的受容性」に対する理解や議論は不十分であり、規制制度も国によって大きく異なるなど、科学と社会のギャップが課題となっています。

産業生物バイオテクノロジー分科会では、ゲノム編集技術の現状と課題を多角的に捉え、科学的知見と社会的視点の融合を目指したウェビナーシリーズを開催します。本シリーズでは、技術動向、国際的な制度比較、サイエンスコミュニケーションのあり方など、専門家による議論を通じて、科学的な事実に基づいた理解を深めるとともに、社会との建設的な対話の糸口を探ります。

第1回目のウェビナーは世界におけるゲノム編集食品の規制について検討を行います。

9. 次 第：

- 12:00 開会の挨拶
磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻園芸学研究室教授）
- 12:05 「ゲノム編集食品～世界はどのように規制しているのか？」
立川 雅司（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院環境学研究科教授）
- 12:45 総合討論
進行
磯部 祥子（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻園芸学研究室教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「日本学術会議国際光デー記念シンポジウム～光が拓く科学と技術の最前線～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会 IC0 分科会
2. 共 催：国際光年協議会
3. 後 援：公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、公益社団法人日本分光学会（以上、全て予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 7 月 7 日（月）13：00 ～ 17：40
5. 場 所：日本学術会議講堂、ロビー（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

2018 年、ユネスコは国際光デーを宣言し、日本学術会議ではこれを記念するシンポジウムを IC0 分科会の主催で継続して開催してきた。本年も同シンポジウムを開催し、光科学技術がもたらす未来社会や、科学と社会への分野横断的な貢献を展望するとともに、分野の次代を担う新進気鋭の若手研究者間の交流を推進する。

9. 次 第：

司会 松尾 由賀利（日本学術会議連携会員／法政大学理工学部教授）

13:00 開会挨拶 荒川 泰彦（日本学術会議連携会員／東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任教授／元国際光学委員会（IC0）会長）

13:10 講演 1 「励起子の物性科学の最前線（仮題）」

五神 真（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所理事長）

13:45 講演 2 「光量子情報とセンシング（仮題）」

竹内 繁樹（京都大学大学院工学研究科教授）

14:20～14:35 休憩

司会 馬場 俊彦（日本学術会議連携会員／横浜国立大学大学院工学研究院教授）

14:35 講演3 「最先端レーザープロセス（仮題）」

奈良崎 愛子（国立研究開発法人産業技術総合研究所総括研究主幹）

15:10 講演4 「光電融合に向けたメンブレンレーザの展開（仮題）」

松尾 慎治（日本学術会議連携会員／日本電信電話株式会社NTT 先端集積デバイス研究
所NTT フェロー）

15:45 閉会挨拶 美濃島 薫（日本学術会議連携会員／電気通信大学大学院情報理工学
研究科教授／国際光学委員会（ICO）副会長）

16:00～17:40 若手研究者によるポスター発表

17:40 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「教育改革と可視化ー生成 AI の普及と向き合う AI・データサイエンス教育」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：大阪成蹊大学
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 7 月 14 日（月）12：30 ～ 15：00
5. 場 所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール（大阪府大阪市東淀川区相川 1 丁目 3 番 7 号）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

本シンポジウムでは、前回公開シンポジウムでの議論を踏まえ、学生のコンピテンシーテスト結果を活用した教育の可能性を探る。特に、生成 AI 時代における人間力育成や教育の多様性に対応する新しい教育手法の模索を中心に、実務者の知見と学術的視点を融合した活発な討論を目指す。

9. 次 第：

☐ 総合司会

水井 賢文（株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹）

☐ 開会挨拶および趣旨説明（20 分）

小山田 耕二（日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長／教授）

☐ 招待講演（40 分）

「教育改革と可視化ー生成 AI 時代の人間力育成」

実務者から選定中

☐ パネル討論（60 分）

タイトル：「AI と教育の未来：多様性を活かす教育手法の模索」

モデレーター：服部 翔大（横河デジタル株式会社 DX/IT コンサルティング事業本部マネージャー）

パネリスト：

- 筑本 知子（日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授）
- 山辺 真幸（一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科特任講師）
- 志村 祐康（国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域再生可能エネルギー研究センター主任研究員）
- 林 宏樹（雲雀丘学園中学校・高等学校教員）
- 吾妻 知美（大阪成蹊大学看護学部学部長）

□ 閉会挨拶（10 分）

筑本 知子（日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「生成 AI を受容・活用する社会の実現に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会、情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所
3. 後 援：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、国立研究開発法人情報通信研究機構、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会
4. 日 時：令和 7（2025）年 7 月 17 日（木）10：00 ～ 17：10
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

急速に進展する生成 AI には、あらゆる学術分野、産業分野、そして社会全体に大きな影響を持つという包括性、将来的には人間と共存する知的レベルとなり得る革新性、さらに、それが加速度的に進展するという加速性などの特徴がある。それゆえに、脅威や課題が存在するとともに、社会への大きな波及効果があり、人類社会の重要課題に対して解決策を提供する可能性がある。日本学術会議ではこのような生成 AI の現状と動向、脅威と課題、活用による波及効果について、学術の立場から深く洞察し、生成 AI を受容・活用する社会の実現に向けてどのような施策をとるべきかについて提言を本年 2 月 27 日に公表した。

このシンポジウムでは、同提言の作成に至る経緯とその概要を説明し、提言の生成 AI の脅威と課題について、および生成 AI の活用による波及効果について提言執筆担当者による講演を行う。最後に講演者によるパネル討論を行い提言の実現について議論する。

9. 次 第：

司会：大場 みち子（日本学術会議第三部会員／京都橘大学工学部情報工学科教授）

10:00

開会挨拶

喜連川 優（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長／東京大学特別教授）

10:10	『生成 AI に関する我が国の施策』 講演者調整中（文部科学省）
10:30	『生成 AI ロボティクスの現在と近未来』 講演者調整中（マイクロソフト株式会社・川崎重工株式会社） 休憩（90 分）（11：30～13：00）
13:00	『提言作成の経緯と概要』 黒橋 禎夫（日本学術会議第三部会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長／京都大学大学院情報学研究科特定教授）
第 1 セッション「生成 AI の脅威と課題」	
13:30	『生成 AI の脅威』 関根 聡（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所大規模言語モデル研究開発センター特任教授）
13:50	『生成 AI の法的・倫理的懸念』 佐藤 健（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構人工知能法学研究センターセンター長／特任教授）
14:10	『生成 AI モデルの備えるべき要件』 宮尾 祐介（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）
14:30	『生成 AI モデルの要件を実現する社会制度』 羽深 宏樹（京都大学大学院法学研究科特任教授／スマートガバナンス株式会社代表取締役 CEO） 休憩（10 分）（14：50～15：00）
第 2 セッション「生成 AI の活用による波及効果」	
15:00	『科学技術の発展に対する効果』 上田 修功（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所革新知能統合研究センター副センター長／日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所客員フェロー）
15:20	『産業分野への効果』 井尻 善久（SB Intuitions 株式会社取締役兼 CRO / LINE ヤフー株式会社データサイエンス統括本部 4 本部長）
15:40	『社会的な波及効果（特に教育）』 下條 真司（日本学術会議第三部会員／青森大学ソフトウェア情報学部教授／大阪大学名誉教授）
パネル討論	
16:00	「提言の実現に向けて」 モデレーター：喜連川 優（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長／東京

大学特別教授)

パネリスト：講演者＋下記メンバー

波多野 睦子(日本学術会議連携会員／東京科学大学理事・副学長(研究・
産学官連携担当))

村上 明子(損害保険ジャパン株式会社執行役員(データドリブン経営推
進部長))

大場 みち子(日本学術会議第三部会員／京都橘大学工学部情報工学科
教授)

17:00 閉会挨拶

下條 真司(日本学術会議第三部会員／青森大学ソフトウェア情報学部
教授／大阪大学名誉教授)

10. 関係部の承認の有無： 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

(下線の講演者等は、主催委員会及び分科会委員)

公開シンポジウム

「第 18 回情報学シンポジウムー生成 AI と ICT が拓く未来：市民参加型デモクラシーとまちづくりー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会、政治学委員会
2. 共 催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（予定）
3. 後 援：一般社団法人情報処理学会（予定）、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人映像情報メディア学会、一般社団法人大学 ICT 推進協議会 (AXIES)
4. 日 時：令和 7（2025）年 7 月 18 日（金）9：30 ～ 12：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

近年、生成 AI や ICT（情報通信技術）の急速な進化は、社会のあらゆる領域に変革をもたらしています。特に、自治体運営や市民参加型のデモクラシー、そして持続可能なまちづくりにおいて、これらの技術が果たす役割はますます重要性を増しています。本シンポジウムでは、以下の問いを中心に議論を深めます。

- 生成 AI や ICT は、市民と政治、自治体運営にどのような影響を与えるのか？
- 市民参加型の意思決定や集合知の活用は、どのように民主主義を進化させるか？
- 技術革新の中で、学術や研究者はどのような役割を担うべきか？

本シンポジウムでは、多様な分野の専門家や実務家を招き、講演やパネルディスカッションを通じて未来像を描きます。市民、自治体関係者、研究者が一堂に会し、新しいガバナンスモデルやまちづくりの可能性について考える場を提供します。

9. 次 第（敬称略）：

司会

城山 英明（日本学術会議第一部会員／東京大学大学院法学政治学研究科教授）

9:30 開会挨拶

下條 真司（日本学術会議第三部会員／青森大学ソフトウェア情報学部教授／大阪大学
名誉教授）

9:40 基調講演「新しい民主主義の地平を切り開く ―自治体におけるデジタルを活用する
政策形成への市民参画の仕組み―」

栗本 拓幸（株式会社 liquitous 代表取締役 CEO）

10:10 基調講演「トランプ 2.0 とデジタル民主主義」

宇野 重規（東京大学社会科学研究所所長）

10:45 - 11:50 パネル

「生成 AI によって民主主義は変貌をとげるか」

上記講演者に加え、

関 治之（一般社団法人コードフォーージャパン代表理事）

稲継 裕昭（早稲田大学政治経済学術院教授）

伊藤 孝行（日本学術会議連携会員／京都大学大学院情報学研究科教授）

美馬 のゆり（日本学術会議第一部会員／公立はこだて未来大学システム情報科学部教
授）

11:50 総括

佐古 和恵（日本学術会議第三部会員／早稲田大学理工学術院教授）

10. 関係部の承認の有無： 第一部承認、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用：方法と課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用に関する検討分科会、情報学委員会サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会

2. 日 時：令和7（2025）年7月19日（土）13:00～17:10

3. 場 所：オンライン開催

4. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

5. 分科会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

データサイエンスの興隆に伴い、従来の社会調査・統計調査のデータに加えて、デジタルデータの活用が期待されている。しかし、デジタルデータやビックデータの収集、分析、活用に関しては、倫理的側面も含めた明確なガイドラインがなく、暗中模索の状況にある。本シンポジウムではデジタルデータの活用に関する課題を、従来の社会調査・統計調査の経験をふまえて議論する。

7. 次 第：

（司会）岩井 紀子（日本学術会議第一部会員／日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学 JGSS 研究センターセンター長）

13:00-13:05 開会の挨拶 浅川 達人（日本学術会議連携会員／早稲田大学人間科学学術院教授）

13:05-13:10 開会の挨拶 橋本 隆子（日本学術会議連携会員／千葉商科大学副学長／商経学部教授）

13:10-14:10 「生成 AI を含むデジタルデータの活用の現状と問題点」
笹原 和俊（日本学術会議連携会員（特任）／東京科学大学環境・社会理工学院教授）

14:10-15:10 生存情報学が拓く未来 ～データがつなぐ人と社会のウェルビーイング～
橋本 隆子（日本学術会議連携会員／千葉商科大学副学長／商経学部教授）

15:10-16:10 「社会調査・社会学からみたデジタルデータ活用の課題」

筒井 淳也（日本学術会議連携会員／立命館大学産業社会学部教授）

16:10-17:00 討論 進行：村上 あかね（日本学術会議連携会員／桃山学院大学社会学部教授）

瀧川 裕貴（日本学術会議連携会員／東京大学大学院人文社会系研究科准教授）

17:00-17:10 閉会の挨拶 玉野 和志（日本学術会議連携会員／放送大学教養学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認、第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
 持続可能な未来を築く物質・構造・機能
 ～資源リサイクル、カーボンニュートラル、食物問題の解決に向けて～
 の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会
IUCr 分科会
2. 共 催：一般社団法人日本結晶学会、日本結晶成長学会（予定）
3. 後 援：検討中
4. 日 時：令和 7（2025）年 7 月 20 日（日）13：00 ～ 16：40（予定）
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」は、2030 年までに達成すべき課題を掲げたものである。しかし、たびたび起こる地域紛争や感染症、資源・環境問題の深刻化により、その実現は危ぶまれている。

持続可能な社会の構築には、新たな機能を持つ物質を創成し、革新的な技術を生み出すことが不可欠である。物質の構造が多様な機能を生み出すことを再認識し、基礎科学の知見をもとに新たなイノベーションを創出していく必要がある。

本シンポジウムでは、プラスチックリサイクル、バイオ燃料生産、光合成の分子機構、植物の栄養吸収、CO₂回収技術といった最先端の研究を通じて、物質創成科学が持つ可能性を探る。資源循環の観点から、プラスチックの持続可能な再利用技術や、未利用資源を活用したバイオ化学品・燃料生産手法を紹介する。さらに、光合成の水分解機構や植物の鉄吸収メカニズムの解明が、エネルギー変換技術や食糧問題の解決にどのように貢献し得るかを議論する。また、大気中からの直接的 CO₂回収技術がカーボンニュートラルの実現に果たす役割についても取り上げる。

日本学術会議が主催する本シンポジウムを通じて、物質創成科学による革新を広く世界に発信し、持続可能な社会の実現に向けた科学技術の重要性を次世代の研究者へと伝えていくことを趣旨とする。

9. 次 第：（予定）

13:00～13:05 開会の辞

杉山 和正（一般社団法人日本結晶学会会長／東北大学名誉教授）（予定）

13:05～13:10 趣旨説明

中川 敦史（日本学術会議連携会員／大阪大学蛋白質研究所教授）

13:10～13:40

座長 西堀 麻衣子（日本学術会議連携会員／東北大学国際放射光イノベーション・スマート研究センター教授）

講演「物質循環と循環経済におけるプラスチックリサイクルの役割」

吉岡 敏明（東北大学大学院環境科学研究科教授）

13:40～14:05

座長 黒田 玲子（日本学術会議連携会員／中部大学先端研究センター特任教授）（予定）

講演「樹脂分解触媒の開発とケミカルリサイクルへの展開」

野崎 恭子（東京大学大学院工学系研究科教授）

14:05～14:30

座長 小島 優子（日本学術会議連携会員／三菱ケミカル株式会社分析物性研究所主幹研究員）

講演「カーボンニュートラルを目指した未利用資源からのバイオ化学品、バイオ燃料の生産技術の開発」

乾 将行（公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）グループリーダー）

14:30～14:40 休憩

14:40～15:10

座長 上村 みどり（日本学術会議連携会員／特定非営利活動法人情報計算法学化学生物学会 CBI 研究機構量子構造生命科学研究所所長）（予定）

特別講演「動的構造解析から解明される光合成水分解反応の機構」

沈 建仁（岡山大学異分野基礎科学研究所長）

15:10～15:35

座長 山下 敦子（日本学術会議連携会員／大阪大学蛋白質研究所教授）

講演「イネ科植物が土壌から鉄を吸収するメカニズムの解明と応用」

村田 佳子（公益財団法人サントリー生命科学財団生物有機科学研究所特任研究員）

15:35～16:00

座長 福島 孝典（日本学術会議第三部会員／東京科学大学総合研究院教授）

講演「ユビキタス CO2 回収に向けた大気からの直接的 CO2 回収技術の開発とその意義」

藤川 茂紀（九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所教授）

16:00～16:30 総合討論

進行：井上 豪（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院薬学研究科創成薬学専攻教授）

16:30～16:40 閉会の辞

菅原 洋子（日本学術会議連携会員／北里大学名誉教授）（予定）

10. 関係部の承認の有無： 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「学校の公共性を問い直す」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会
2. 共 催：京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE. FORUM、
文部科学省科学研究費助成事業基盤研究(B)「子どもの多様なニーズに対応
するパフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善」（代表：西岡加名
恵）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和7（2025）年7月26日（土）9：30～12：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催： 開催予定なし

8. 開催趣旨：

文部科学省が令和6（2024）年10月に公表した「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、不登校児童生徒数が過去最多を記録したことが示された。

子どもたちの十全な発達と学力を保障するという観点からは、教育機会確保法（平成28（2016）年制定）で示された通り、学校以外の居場所を確保するといった支援の充実も重要である。一方で、学校の在り方を問い直し、「学校」という概念そのものを捉え直すことも喫緊の課題であろう。

そこで「不登校現象と学校づくり分科会」では、不登校をめぐる様々な分野での研究成果を集約するとともに、学校の在り方を問い直すことで包摂性を高めているような事例を検討する。これらを踏まえつつ、今後、求められる「学校」の概念、ならびに学校づくりの方向性を考究する。

本シンポジウムでは、改めて「学校の公共性」について議論することを通して、今後、求められる学校づくりについて検討する。

9. 次 第：

司会

酒井 朗（日本学術会議連携会員／上智大学総合人間科学部教育学科教授）

松下 佳代（日本学術会議連携会員／京都大学大学院教育学研究科教授）

9：30 開会挨拶・趣旨説明

西岡 加名恵（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授・
教育実践コラボレーション・センター長）

9：40 報告1 教育問題としての「公共性」——教育哲学の観点から

今井 康雄（日本学術会議連携会員／東京大学名誉教授）

10：05 報告2 公教育カリキュラムの再編と子どものウェルビーイング——多様な教育機会とジレンマの意味論

澤田 稔（上智大学教職・学芸員課程センター長）

10：30 報告3 学校の公共性と学びの場の多様化

大桃 敏行（日本学術会議連携会員／東京大学名誉教授）

10：55 休憩

11：05 質疑応答・全体討論

指定討論：志水 宏吉（日本学術会議連携会員／武庫川女子大学大学院臨床教育研究科教授）

12：20 総括・閉会挨拶

山名 淳（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

12：30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「地球温暖化は南極をどのように変えるか？」
－日豪共同研究の新展開－
の開催について

1. 主 催： 日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会
2. 共 催： 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所、オーストラリア南極局、タスマニア大学、オーストラリア南極プログラムパートナーシップ、在日オーストラリア大使館（予定）、文部科学省（予定）
3. 後 援： 独立行政法人日本学術振興会二国間交流事業オープンパートナーシップ（OP）共同研究・セミナー、豪日交流基金、タスマニア州政府
4. 日 時： 令和 7（2025）年 7 月 28 日（月） 10：00 ～ 17：00
5. 場 所： 日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）
6. 一般参加の可否： 可（英語の発表については同時通訳を依頼予定）
一般参加者の参加費の有無： 無
7. 分科会等の開催： 開催予定なし
8. 開催趣旨：
地球温暖化に伴い、南極域の環境は急激に変化しつつあることが最新の研究で明らかとなってきた。そのような南極域の科学研究を成立・維持するためには国際的な協力が不可欠であり、日本は長期に渡りオーストラリアとの強力な友好関係のもと南極研究を実施してきた。その関係は 2008 年の日豪両首相による日豪共同ステートメントや 3 年に 1 回開催されている日豪科学技術協力合同委員会など国家レベルの合意によって更に強化されてきたが、コロナ禍により大幅に制限されてきた。本シンポジウムでは最新の南極・南大洋研究トピックスを紹介するとともに、過去の日豪の協力関係のレビューと今後の南極研究・観測航海の情報交換、およびコロナ後の新規共同研究体制構築を主目的とする。
9. 次 第：

司会進行 平 譚 享（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授）

10:00 開式挨拶

三枝 信子（日本学術会議第三部会員／国立研究開発法人国立環境研究所理事）

中村 卓司（日本学術会議第三部会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
国立極地研究所教授）

Emma Campbell （オーストラリア南極局所長）

10:05 趣旨説明

Tony Press （オーストラリア南極プログラムパートナーシップ／タスマニア大学兼任教
授／タスマニア南極ゲートウェー諮問委員会議長）

10:10 講演

原田 尚美（日本学術会議連携会員／東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究
センター教授）

David Gwyther （クイーンズランド大学環境学部研究員）

Abigail Jessica Rose Smith （オーストラリア南極局研究員）

高橋 晃周（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所教授）

溝端 浩平（東京海洋大学学術研究院准教授）

Alex Fraser （オーストラリア学術会議フューチャーフェロータスマニア大学研究員）

江尻 省（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所准教授、第
67 次南極地域観測隊隊長（兼冬隊長）

12:00-13:00 休憩（昼食）

13:00-13:45 基調講演

座長 青木 茂（北海道大学低温科学研究所教授／第 67 次南極地域観測隊長（兼夏隊
長）

Nathan Bindoff （オーストラリア南極プログラムパートナーシップ／タスマニア大学
教授）

13:45-14:20

パネルディスカッション

座長 川口 創（オーストラリア南極局上席研究官）

登壇者：講演者

14:20-14:30

公開シンポジウム閉会挨拶

榎本 浩之（日本学術会議連携会員（特任）／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長／特任教授）

11. 関係部の承認の有無：第三部承認

12. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会及び分科会委員）

公開シンポジウム
「複合的地球環境問題へのヒューマンディメンションからの問い（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人間の側面分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：フューチャー・アース日本委員会、
大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所（予定）
4. 日 時：令和7（2025）年8月2日（土）13：00～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
社会の分断が進む人新世における複雑に絡み合った地球環境問題の解決に向けて、サーキュラーエコノミー(CE)、カーボンニュートラル(CN)、ネイチャーポジティブ(NP)のつながりを、包摂、正義、衡平の視点と、認識、行動、制度の変容の視点から、2030年のSDGsの先とWell-beingを見据えて議論する。
9. 次 第：
司会：恵谷 浩子（日本学術会議連携会員／独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長）

13:00～13:05 開会のあいさつ
谷口 真人（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

【第1部】環境問題のいま
13:05～13:25 「カーボンニュートラル（仮）」

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

13:25～13:45「サーキュラーエコノミー（仮）」

渡辺 浩平（日本学術会議連携会員／帝京大学文学部教授）

13:45～14:05「ネイチャーポジティブ（仮）」

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

【第2部】 ヒューマンディメンションからの問題提起

14:05～14:35「グローバルな環境問題における規制と倫理（仮）」

立花 幸司（千葉大学大学院人文科学研究院准教授）

休憩 14:35～14:45

【第3部】 パネルディスカッション

14:45～15:55

モデレーター：谷口 真人（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）

パネリスト：

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

渡辺 浩平（日本学術会議連携会員／帝京大学文学部教授）

香坂 玲（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

立花 幸司（千葉大学大学院人文科学研究院准教授）

唐沢 かおり（日本学術会議連携会員／東京大学大学院人文社会系研究科教授）

豊田 光世（日本学術会議連携会員／新潟大学佐渡自然共生科学センター教授）

閉会のあいさつ

15:55～16:00

山下 潤（日本学術会議連携会員／九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

11. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため無

12. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」
の開催について

1. 主催：日本学術会議第三部会、日本学術会議東北地区会議、東北大学
2. 共催：東北大学大学院工学研究科
3. 後援：なし
4. 日時：令和 7（2025）年 8 月 7 日（木）13：30 ～ 17：30
5. 場所：東北大学大学院工学研究科
青葉山キャンパス C01 センタースクエア中央棟 2F 大講義室
（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり（日本学術会議第三部会）
8 月 7 日（木）10:30 ～ 12:30
8 月 8 日（金）9:00 ～ 12:00

8. 開催趣旨：

本公開シンポジウムでは、昨年度に続き「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」を開催します。気候変動、エネルギー枯渇、貧困、戦争など、様々な地球規模の課題に立ち向かう日本の研究者たちが、世界中の研究者と力を合わせ、情熱をもって問題解決に取り組んでいます。まさに世界を駆け巡り研究を進めている最前線の研究者の方々を招き、その熱い思いと思い描く未来を中高生や若手研究者たちと共有し、次世代に向けて私たちに何ができるのか、どうやって取り組んでいけばいいのかなど、迷いや不安、疑問をはじめ、新たな気づきやアイデアなどを語り合いましょう。そして、より良い未来に向けて、まずは“一歩”共に考えていきましょう。

9. 次第：

13：30～13：40 開会挨拶

光石 衛（日本学術会議会長／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事
／東京大学名誉教授）

富永 悌二（東北大学総長）
伊藤 彰則（東北大学工学研究科長・工学部長）

13：40～14：10 基調講演（30分）
城戸 淳二（山形大学特任教授）

14：10～14：30 講演1（20分）
黒橋 禎夫（日本学術会議第三部会員／大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所所長）

14：30～14：50 講演2（20分）
市川 温子（日本学術会議第三部会員／東北大学大学院理学研究科教授）

14：50～15：05 休憩（15分）

15：05～15：25 講演3（20分）
本橋 ほづみ（日本学術会議連携会員／東北大学大学院医学系研究科教授）

15：25～15：45 講演4（20分）
平田 泰久（東北大学大学院工学研究科教授）

15：45～16：05 質疑応答・参加者全員での写真撮影（20分）

16：05 中締め挨拶
五十嵐 和彦（日本学術会議第二部会員／日本学術会議東北地区会議代表幹事／東北大学大学院医学系研究科教授）

※オンライン配信終了

16：10～16：30 休憩（20分）

16：30～17：30 研究者の卵たちと共に未来を描く（対面グループディスカッション）
中高生・大学生と講師や会員との交流の場、参加者からの質問や意見交換を実施
※研究者の卵たちをグループ分け、全員がディスカッションに参加できるよう運営

17：30 各グループにて写真撮影、クロージング、終了

司会進行

北川 尚美（日本学術会議第三部会員／東北大学大学院工学研究科研究科長補
佐・教授

10. 関係部の承認の有無：第三部、科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催部会及び地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「情報教育の現状と未来～情報教育課程の設計指針の改訂について～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会
2. 共 催：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会
3. 後 援：全国高等学校情報教育研究会（予定）、情報学科・専攻協議会（予定）、その他情報学関連学会に後援申請予定
4. 日 時：令和7（2025）年9月4日（木）15：30 ～ 17：30
5. 場 所：北海道科学大学（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨

日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会は、情報処理学会と連携して、2018年に「情報学の参照基準」、2020年に「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」を公表し、情報科目の教育の方針を示した。

その後の情報分野の急速な進化をふまえ、日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会では情報教育課程の設計指針の改訂に向けた検討を行っている。日本学術会議情報学委員会情報学教育分科会が主催し、関連する学協会と連携して公開シンポジウムを開催し、大学及び高校の教員組織や情報関連の学協会との意見交換を行う。

9. 次 第：（予定）

全体司会

高岡 詠子（日本学術会議連携会員／上智大学理工学部教授）

15:30 開会挨拶

下條 真司（日本学術会議第三部会員／青森大学ソフトウェア情報学部教授／大阪大学名誉教授）

15:40 「情報科を取り巻く現状と学習指導要領改訂に向けて」

須藤 祥代（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官／文部科学省初等中等教育局教科調査官）

16:00 「設計指針から参照基準へ」

萩谷 昌己（東京大学特命教授）

16:20 （ 休憩 ）

16:30 総合討論

司 会

中山 泰一（日本学術会議連携会員／電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

討論者

久野 靖（日本学術会議連携会員（特任）／電気通信大学特命教授）

大場 みち子（日本学術会議第三部会員／京都橘大学工学部情報工学科教授）

須藤 祥代（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官／文部科学省初等中等教育局教科調査官）

井手 広康（愛知県立旭丘高等学校教諭）

17:20 閉会挨拶

徳山 豪（日本学術会議連携会員／東北大学名誉教授）

17:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「界面反応に基づくバイオマテリアル研究開発」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会
2. 共 催：日本バイオマテリアル学会
3. 協賛：一般社団法人日本人工臓器学会、一般社団法人日本歯科理工学会、公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人繊維学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人日本 MRS、一般社団法人日本再生医療学会、日本 DDS 学会、一般社団法人日本骨代謝学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人スマートプロセス学会、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）、日本歯科器械工業協同組合、一般社団法人日本医療機器産業連合会（以上、全て予定）
4. 日 時：令和 7 年（2025 年）11 月 11 日（火）9：00 ～ 11：30
5. 場所：東京たま未来メッセ（東京都八王子市明神町 3 丁目 19-2）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無
8. 開催趣旨：
医療機器、人工臓器、人工器官などを構成する固体材料（ハードマテリアル）及び生体機能ゲルや薬物送達システム（DDS）の担体を構成する超分子などのソフトマテリアルの生体適合性と生体機能性（組織形成能、抗菌性、抗血栓性など）は、材料表面と生物相間の界面反応の結果として発現する。すなわち、バイオマテリアルの性能を支配する生体適合性や生体機能性は、材料自体の表面と生体組織との物理化学・生化学反応によって支配される。その機構解明は連続的に機能する生体機能界面の創製につながるが、これまでは反応の結果現れる現象（分子吸着、タンパク質吸着、細胞接着、細菌付着、免疫反応、組織形成、炎症反応など）を個別に解析するのみで、分子レベルから細胞・

組織レベルまでを包含した界面反応を統一的・体系的に理解し、その制御指針を構築しようとする学術研究は存在しなかった。本シンポジウムでは、これら一連の学術研究を「バイオマテリアル界面科学」と定義し、界面現象をバイオマテリアル・医療機器の研究開発に役立てる方策について討論し、今後の学術研究戦略を展望する。

9. 次 第：

9:00-9:05

1) 開会挨拶・趣旨説明

堀 隆夫（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学大学院医学研究科客員教授）

9:05-10:20

2) バイオマテリアル界面科学の構築

司会：石原 一彦（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／東京大学名誉教授）

(1) 「バイオマテリアル DX（仮）」

川下 将一（東京科学大学総合研究院教授）

(2) 「材料－生体反応科学（仮）」

大矢根 綾子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所ナノ材料研究部門総括研究主幹）

(3) 「バイオ界面で機能するポリマーマテリアルの創出（仮）」

岩崎 泰彦（関西大学化学生命工学部教授）

(4) 「固体表面機能創出・界面バイオ反応制御（仮）」

松垣 あいら（大阪大学大学院工学研究科准教授）

(5) 「骨形成機構に基づくバイオマテリアル（仮）」

松本 卓也（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授）

10:25-11:25

3) 界面現象に基づくバイオマテリアルの研究開発

司会：岸田 晶夫（日本学術会議連携会員／東京科学大学総合研究院生体材料工学研究所プロジェクト教授）

(1) 「バイオミメティックポリマーの創出と医用機器への実装（仮）」

石原 一彦（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／東京大学名誉教授）

(2) 「炭酸アパタイト人工骨の創製（仮）」

石川 邦夫（日本学術会議連携会員／日本バイオマテリアル学会会長／九州大学大学院歯学研究院教授）

(3) 「骨基質配向化デバイスの創製 (仮)」

中野 貴由 (日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科
学専攻教授)

(4) 「バイオマテリアルを用いたティッシュエンジニアリングの新展開 (仮)」

清水 達也 (東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長)

11:25-11:30

4) 閉会挨拶

石川 邦夫 (日本学術会議連携会員／日本バイオマテリアル学会会長／九州大学大学
院歯学研究院教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「国立自然史博物館設立をめざして
ー自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同海洋生物学分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同進化学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同植物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUBS 分科会
2. 共 催：一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会、日本分類学会連合（予定）
3. 後 援：自然史学会連合（予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 11 月 22 日（土）13:00 ～ 17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

国立自然史博物館の設立は長く自然史研究者の念願であった。近年、自然史資料はその収蔵施設が不足する中、貴重な標本類が急速に失われているのが実情である。また、自然史科学は自然の多様性の把握とその起源・進化を明らかにする学問として発展しつつあり、その研究の中心機関として国立自然史博物館の設立は急務である。過去の動植物相の変遷を知り、現在から未来にわたってその変化をモニターするために蓄積されるべきデータは、生物多様性を把握し地球環境の保全にも役立つ自然史博物館が持つべき重要な機能の一つで、わが国の持続可能性に寄与するだけでなく、次世代教育を含めた社会貢献にも欠かせないものである。国立自然史博物館を持たないことは、今後の自然史研究においてのみならず、日本の科学全体にとって取り返しのつかない損失となるだろう。

本シンポジウムでは国立自然史博物館の設立に向けて、長く自然史研究に携わってきた研究者を中心に、国立自然史博物館の必要性を訴えていただくと同時に、国立自然史博物館を実現するために多様な分野の研究者で力を合わせ、具体的に何をすべきかを議論することを目的とする。

9. 次 第：

総合司会：大路 樹生（日本学術会議連携会員／名古屋市科学館館長）

13:00 開会の挨拶

磯 博康（日本学術会議副会長／第二部会員／国立健康危機管理研究機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐）

13:10 趣旨説明

大路 樹生（日本学術会議連携会員／名古屋市科学館館長）

第1部「自然史研究の重要性と問題点」

13:20 講演「自然史研究の一次資料はどれほど大学から失われたのか」

堀 利栄（日本学術会議第三部会員／愛媛大学大学院理工学研究科教授）

13:40 講演「自然史研究の醍醐味 新しいテクニックを用いた研究から見えてきたこと」

三上 智之（独立行政法人日本学術振興会特別研究員 PD）

14:00 講演「国立自然史博物館の研究機関としての役割」

遠藤 一佳（東京大学大学院理学系研究科教授／自然史学会連合代表）

14:20 講演「国立沖縄自然史博物館設立を目指して」ー設立準備運動に携わってきた立場から

岸本 健雄（一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事）

14:40 講演「進化学分野から国立自然史博物館に求めたいこと」

石川 麻乃（日本学術会議連携会員／東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

休憩（15:00～15:20）

第2部「総合討論」

15:20 パネラー

西田 治文（日本学術会議連携会員／中央大学名誉教授）

村上 哲明（日本学術会議連携会員／兵庫県立人と自然の博物館館長）

久保田 好美（日本学術会議連携会員／独立行政法人国立科学博物館地学研究部環境変動史研究グループ研究主幹）

堀 利栄（日本学術会議第三部会員／愛媛大学大学院理工学研究科教授）

三上 智之（独立行政法人日本学術振興会特別研究員 PD）

遠藤 一佳（東京大学大学院理学系研究科教授／自然史学会連合代表）

岸本 健雄（一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事）

石川 麻乃（日本学術会議連携会員／東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

16:45 閉会の挨拶

大路 樹生（日本学術会議連携会員／名古屋市科学館館長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学分科会エネルギーと科学技術に関する分科会、環境学委員会環境科学・環境工学分科会、化学委員会・総合工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会
3. 後 援：公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、公益社団法人石油学会、一般社団法人触媒学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、一般社団法人日本 LCA 学会（全て予定）
4. 開催日：令和 7（2025）年 12 月 1 日（月）13：00 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本の最終エネルギー消費のうち直接的な電力としての利用は 30%以下で、残りの 70%以上が化石燃料を用いた熱利用である。その一方で、全体として投入された一次エネルギーのうち 6 割以上が最終的に熱として廃棄されている。廃熱量の低減や未利用熱の活用は大幅なエネルギー消費削減が期待できる数少ない分野の一つであり、熱エネルギー利用の拡大は、カーボンニュートラル実現にとって避けて通れない課題である。

本シンポジウムでは、蓄熱・熱輸送技術を導入した熱利用ビジョン、再生可能エネルギーの大量導入時代の変動平準化技術として注目されている蓄熱発電、未利用熱の有効利用、熱利用技術を総合して各地で取り組まれてきた地域熱供給について講演と討論を行い、カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性を示し、その重要性への理解を広く共有することを目的としている。

9. 次 第

13:00 開会挨拶

北川 尚美（日本学術会議第三部会員／東北大学大学院工学研究科研究科長補佐・教授）

13:10 講演

(1)趣旨説明

藤岡 恵子（日本学術会議連携会員（特任）／株式会社ファンクショナル・フルイッド代表取締役社長）

(2)「蓄熱技術を導入した次世代産業とカーボンニュートラル時代の熱利用・貯蔵・輸送ビジョン構築の課題（仮）」

中垣 隆雄（早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

(3)「岩石蓄熱およびエネルギーマネジメント技術を用いたプラント実証試験（仮）」

岩城 智香子（日本学術会議連携会員／東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）

(4)「冷熱利用（仮）」

講演者未定

(5)「廃棄物焼却場の未利用熱利用（仮）」

藤井 実（国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域システムイノベーション研究室室長）

(6)「地域冷暖房の変遷と現状、今後の展望（仮）」

佐土原 聡（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院イノベーション部門教授）

16:10 総合討論

藤岡 恵子、講演者

17:20 閉会挨拶

下田 吉之（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科教授）

森口 祐一（日本学術会議第三部会員／東京大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 高校生のためのウェブサマースクール「ゲノム編集ってなに？」

主催：一般社団法人日本医学会連合

期間：令和7年8月2日（土）

場所：オンライン開催

参加予定者数：約500名

申請者：一般社団法人日本医学会連合 会長 門脇 孝

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

2. 第51回全国語学教育学会年次国際大会

主催：特定非営利活動法人全国語学教育学会

期間：令和7年10月31日（金）～11月2日（日）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加予定者数：約1,400名

申請者：特定非営利活動法人全国語学教育学会（JALT）

代表者 金子 クレア

審議付託先：第一部

審議付託結果：第一部承認

3. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会国際シンポジウムー看護キャリアとしての高度実践看護：同州と日本のプライマリ・ケアにおけるその価値と課題ー

主催：一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会

期間：令和7年6月20日（金）～6月22日（日）

場所：札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター

参加予定者数：約6,000名

申請者：第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

大会長 木佐 健悟

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

○今後の予定

●幹事会

第386回幹事会	令和7年6月30日（月）	14：30から
第387回幹事会	令和7年7月28日（月）	14：30から
第388回幹事会	令和7年8月29日（金）	14：30から
第389回幹事会	令和7年9月26日（金）	14：30から

●総会

第195回総会	令和7年10月27日（月）～29日（水）
---------	----------------------